

施策番号	2203		
施策名	歴史的な町並みや京町家等の保全		
概要	京都のまちや歴史、文化の象徴ともいえる京町家や大規模邸宅等の景観資産について、景観重要建造物等への指定や外観修景を行うなどにより、風情ある京都の町並みを次の世代に継承していく。		
担当局・部室	都市計画局・都市景観部	共管局・部室	
上位政策	22 景観		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市景観計画，京都市歴史的風致維持向上計画，京町家再生プラン		

施策の評価

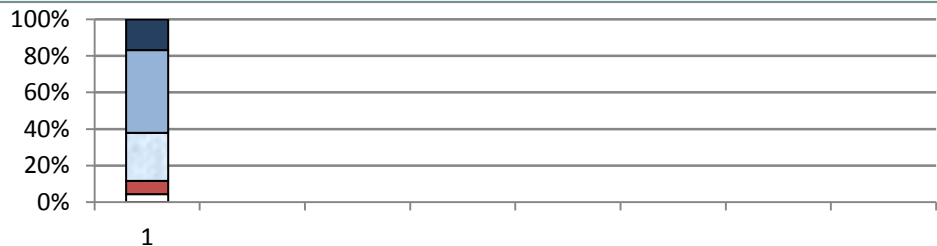
1 客観指標評価

指標名		23年度	24年度	25年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1	地域の景観を形成する核となる建造物等の指定数(件)	e	c	17	18	30	60.0%	b	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		e	c	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		25年度回答					有効回答者数	評価
		そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1	京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。	90	243	141	39	23	536	b
		16.8%	45.3%	26.3%	7.3%	4.3%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						b



- そう思う
- どちらかと言うとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言うとそう思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						24 年度	B
	重み付け	☐ 客観指標	b	☒ 市民の実感	b			
(重み付けの理由) 京都らしい景観を守るため、地域の景観を形成する重要な要素である京町家を指定制度も活用しながら保全していることを市民が実感し、景観の保全につながっていると感じる事が重要であることから、市民の実感に重み付けを行った。								
(原因分析) ・客観指標においては、景観重要建造物や歴史的風致形成建造物に指定した件数を評価しており、平成24年度は前年度に比べ、若干、指定件数が伸びたものの、目標値には届かず、b評価となった。 ・また、これまでからの重要伝統的建造物群保存地区等の地区指定制度や景観重要建造物等の個別指定制度を活用した建造物の外観修景等を進めるとともに、様々な主体による京町家の保全に関する情報発信等を行っており、市民の実感として高いb評価を得ていることから、総合評価としてB評価となった。							23 年度	C

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		25年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		24年度 決算額	25年度 予算額		
1	伝統的建造物群保存等事業	41,149	45,697	かなり良い	都市計画局
2	姉小路界わい地区街なみ環境整備事業	5,563	8,302	良い	都市計画局
3	歴史的町並み再生事業	107,430	123,311	普通	都市計画局
4	嵯峨鳥居本町並み保存館公開展示事業	3,289	3,305	—	都市計画局
5	先斗町町並み調査事業	—	21,967	—	都市計画局
6	嵯峨鳥居本町並み保存館(修理事業)	—	3,200	—	都市計画局
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・今後、京都のまちの歴史、文化の象徴ともいえる京町家や大規模邸宅等の景観資産について、景観重要建造物等への指定をより積極的に行い、それらを通じ、京都のくらしや文化を次の世代に引き継いでいく。

施策名	2203	歴史的な町並みや京町家等の保全				
指標名	地域の景観を形成する核となる建造物等の指定数（件）					
担当課	景観政策課		連絡先	2 2 2－3 3 9 7		
1 指標の説明						
地域の景観を形成する重要な要素となっている建造物について、景観重要建造物及び歴史的風致形成建造物等に指定された数						
2 指標の意味						
地域の景観を形成する重要な要素となっている建造物の保全数を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：事業担当課調べ						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	17	18	1件増	30	景観重要建築物の指定候補数が約600件あり、平成23年度からの10年間でこの半分の指定を目標とする。	60.0%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	全国1位	349件	32年度	22.9%	景観重要建築物の指定候補数が約600件あり、平成23年度からの10年間でこの半分の指定を目標とする。	
5 評価基準						
目標値に対する達成度が、						
a：70%以上（21件以上）						
b：60%以上70%未満（18～20件）						
c：50%以上60%未満（15～17件）						
d：40%以上50%未満（12～14件）						
e：40%未満（～11件）						
6 基準説明						
過去の最高値をc評価とした。						
<過去の指定件数>						
平成17年度 3件						
平成18年度 17件						
平成19年度 6件						
平成20年度 0件						
平成21年度 8件						
平成22年度 11件						
7 評価結果						
23	24	25				
e	c	b				